

短歌

【小学1年生・2年生】

特選 ホツカホカたきこみごはんいただきます
みんなでたべると心もほかほか

稲枝東小学校2年 有田 凜音

(評) たき上がったばかりのたきこみごはんをみんなで楽しくたべているようすが伝わってきます。ホツカホカとほかほか、片かなと平かなの使い方も良かったと思います。

(彦根文芸協会 森 典子)



準特選 ふゆやすみたくさんつもったゆきつんで

かまくらにいるたのしいひととき

旭森小学校2年 井上 太陽

(評) 雪をつんでやっつくったかまくら、その中に今いる作者、うれしくて楽しくてニコニコ顔が目に見えます。少しでも長くとげませんように！

(彦根文芸協会 森 典子)

佳作 だいだいのかぼちゃのものおいしそう

家ぞくで食べておなかいっぱい

城西小学校2年 中村 友乃

入選 おじいさんとおばあさんがみかんをむいたら

わらっているかおがでてきた

城陽小学校1年 前田 悠真

【小学3年生・4年生】

特選 夜の空ドンとひらいた大花火

ぼくの心はハッピーになる

城南小学校3年 吉田 治 旦

(評)

夏の夜空にドンという音と共に大きく美しい花火がうかびます。音が聞こえる近くで見えていたのですね。色とりどりの美しさにハッピーになる。うれしい心もつたわってきます。夏の夜空の美しい花火その音と共に明るいい心もえがき出されたのが良かった。

(彦根文芸協会 日比野 美鈴)

準特選 あついなつミンミンないてるせみたちは

いきてるあいだがんばってなく

河瀬小学校4年 安田 絢 音

(評)

あつい夏の日にはミンミンとせみはなっています。作者も、暑さを感じています。それだけにおわらず、せみが生きているあいだがんばってるといふ発見や感どうにつなげているところがすばらしいです。これからも楽しい発見を短歌にしてください。

(彦根文芸協会 日比野 美鈴)

佳作 やまのこのナイトハイクでさげんだよ

おばけみたいな先生の顔

城南小学校4年 堀田 梨 央

佳作 太陽の光みなもに消えてゆく

なみうつような光まぶしき

城南小学校4年 中清水 初 奈

入選 平成の運動会が終わったね

次の年でもがんばるわたし

平田小学校4年 大前 聖

入選 シュノーケル期待とちがう海の中

みそしるのようなかいそうとじやり

旭森小学校4年 井上 璃 子

入選 妹をだっこしてみと思ったよ

生まれた時よりせいちようしたな

城西小学校4年 徳永 明 李

【小学5年生・6年生】

特選 このうみでつながっているあのくにと

だからいつでもきみといっしょだね

旭森小学校6年 川村 心桜

(評)

外国の小学生をお招きし、生活を共にしてお互いの気持ちを通じたのでしよう。学習・運動・会食・遊びなどによって発想のすばらしい歌が詠めました。この調子で、短歌に親しまれますことを希望します。

(彦根文芸協会 長谷川 紀子)

特選 たからものこころのなかにつまってる

ひらけばそこはゆめのせかいだ

城西小学校5年 中村 心春

(評)

あなたの心の中に詰まっている宝物に、どきどきします。開けばそこは夢の世界だと自らの言葉ですつきり詠めました。心の中の夢を泳いで下さい。生活の中に気付くことを自由にあなたらしく詠み続けられますように。

(彦根文芸協会 長谷川 紀子)

準特選 実験で危険な薬品使う時

ぼくの心はドキドキするよ

稲枝東小学校6年 高井 智大

(評)

作者には、危険な薬品を使う実験が初めてかも知れません。先生に見守られながらドキドキして学んでいることを詠んでいる良い句です。

先生は、化学者になるかも知れないと、その子を育てておられます。挑戦しては如何かな。

(彦根文芸協会 長谷川 紀子)

準特選 おとうとはいつもニコニコうれしそう

わたしもおもわずニッコリしちゃう

城南小学校5年 高橋 みのり

(評)

すばらしい家族詠です。弟は、「いつもにこにこうれしそう」で、作者である姉もその姿に「おもわずにっこりしちゃう」と、ご家族の姿が目に見えます。沢山の歌の中でも、この独自性が良かったです。

(彦根文芸協会 長谷川 紀子)

準特選 冬休み家族であつまるお正月

みんなで食べるおせちのまほう

佐和山小学校6年 川崎 鈴蘭

(評)

故郷に、三世代・四世代が集まり、孫子の成長を喜ぶ姿を想像します。食卓に並べられた手作り料理の数多を味わっています。多忙な世にも、健康で老いることを願います。結句の「おせちのまほう」は作者の発見です。

(彦根文芸協会 長谷川 紀子)

佳 作 紅葉こうようの荒神山でハイキング

紅葉もみぢにいちようそれから楓

稲枝東小学校6年 池野 楓

佳 作 楽しみは持久走大会一位とり

チャンピオンになり自まんする時

城陽小学校6年 眞田 眺希

佳 作 冬の山ふわふわ雪のステージで

ぴよんぴよんはねてうさぎがおどる

佐和山小学校6年 中川 はる佳

佳 作 運動会力を合わせがんばって

優勝目指しかけぬけてゆく

城陽小学校6年 林 結依菜

佳 作 楽しみは宿題おわりお菓子食べ

歴史の本を読んでいる時

鳥居本小学校6年 押谷 美優

佳 作 かならずね人は失敗という壁に

ぶつかるんだでもそれでいい

鳥居本養護学校 小学部6年 桑名 彩



入 選 実りの秋おじいちゃんから届く柿
よくじゆくしていて秋の味する

稲枝東小学校6年 生子 央

入 選 おはよう！おおきな声であいさつし
みんなで広げるあいさつの輪を

佐和山小学校6年 朝枝 佳乃

入 選 秋の雲飛行機雲やうろこ雲
野原にねそべり秋を感じる

稲枝東小学校6年 山田 拓海

入 選 秋の夜リンリンと鳴くすず虫よ
歌の合そういつまで続く

佐和山小学校6年 西村 博幸

入 選 雨上がりふつと空を見上げたら
きれいな虹を見つけたよ

佐和山小学校6年 山田 愛凜

入 選 秋晴れに心身ともにこちよい
どこに行くにも足どり軽く

佐和山小学校6年 池本 怜由

入 選 秋の朝ドアをあけたら風がふく
そろそろ服もころもがえかな

佐和山小学校6年 垣谷 花奈

入 選 桜咲くいつもの道を友達と
思い出話に泣き笑いする

平田小学校6年 柴田 紗希

入 選 十月は読書の秋だ本読もう

一ぱいあるよおもしろい本

城陽小学校6年 林 志優

入 選 修学旅行家族のおみやげ迷ってる

せかされながらあせって決める

城南小学校6年 堀田 真瑚

入 選 カーニバル体育館から音や歌

きれいな音だいやされるな

城陽小学校6年 清水 葉南



【中学生】

特 選 今までにやってきたこと出しきって

笑顔で終わろう最後の大会

稲枝中学校2年 増居 なずな

(評) 部活動に頑張ってきた最後の大会に臨む気持がよく出ています。よく似た短歌

が他にもありますが、その中でも作者の思いや言葉の使い方・流れを考えて、読む人に解りやすくしたのが良かった。これからも、五・七・五・七・七の基本のリズムを大切にしたい短歌を作ってください。

(彦根文芸協会 河分 武士)

特 選 友達が一番身近な宝物

その存在に深まる絆

中央中学校2年 長谷川 純也

(評) 良い友達に恵まれた嬉しさがよく出ています。かけがえない青春に、友達を

「一番身近な宝物」と思えるあなたにはきつとこれからも良い人生が待っていると思います。結句を「深まる絆」にしたことはこの作品をきりつと引き締める言葉になりました。これからも、良い作品を作り続けてください。

(彦根文芸協会 河分 武士)

特 選 「ありがとう」たった五文字で良い気持ち

相手と自分の心をつなぐ

南中学校2年 疋田 萌果

(評) ひと言がどんなに相手に伝わるか、人と人との関係に大きな役目をするのが言

葉です。作者は「たった五文字」がどんなに大切かをよく知っていて、相手に伝わりると同時に自分もよい気持ちになると、「ありがとう」の大切さを短歌にしたのが良かった。まとめ方も良いのでこの調子で頑張ってください。

(彦根文芸協会 河分 武士)



準特選 教えられ考えつくったパソコンで
初めて見たぞ自分の名刺

中央中学校2年 千代 康生

(評) 初めて習うパソコンは難しいと感じるものです。苦勞して手始めに作ったのが

自分の名刺であった、と嬉しい気持を短歌にしたのが良かった。

珍しいことや、自分だけの体験をテーマにすると、読者に対する説得力が増します。それは短歌作りに大切なことでもあります。

(彦根文芸協会 河分 武士)

準特選 ラクガキの多い黒板生徒らの
わかってほしき思いがあるから

中央中学校2年 國嶋 勇 牙

(評) 黒板に「落書が多いのは何故か」。日頃から落書を多く書いているのは皆が「悩

みごとなどを解ってほしい思いがあるからだ」と訴えています。自分の思いを語ることは短歌にはとても大切なことです。

これからも「何があつて、私はどう思う」を大切に^{うた}して短歌を作ってください。

(彦根文芸協会 河分 武士)

準特選 卒業の日第二ボタンをくれた君
忘れられない思い出の人

鳥居本中学校2年 平田 李阿恋

(評) 卒業のお別れにボタンを千切って記念にと渡してくれたことが、とても心に残っ

たのでしよう。忘れられない思い出にしたいと自分の心を正直に言っているのが良かった。短歌としては、三句目の「くれた君は「思い出の人」と名詞が重なるので、ここは「くれたのは」とした方が流れも良くなります。

(彦根文芸協会 河分 武士)

準特選 中山道みんなであるいて疲れたが
歴史を学ぶ良い経験に

彦根中学校3年 箕浦 風音

(評) 学校行事の長距離遠足の体験を上手にまとめました。長距離遠足の体験の作品

はいくつかありましたが、特に中山道の長距離を歩いて疲れた反面、歴史を学ぶ良い経験になったと、自分の感想をしっかりと語って、基本どおりにリズムよく短歌に^{うた}されているのが光ります。

(彦根文芸協会 河分 武士)

準特選 だいじょうぶそのひとことで勇氣出る
ことばの力をしんじてみよう

南中学校2年 杉本 麻緒

(評) 「だいじょうぶ」と掛けてもらったひと言が、自分を勇氣づけてくれ、有り難さ

も良く出ています。声をかけて励ますとこんなにも勇氣がわくものかと「言葉の力」を信じて生きようとする気持ちがよく出ています。「受けた言葉」に対して「自分の思い」が表現されているのが良かった。

(彦根文芸協会 河分 武士)

佳作 新入生吹奏楽部の演奏で

少しはきんちようほぐれるといい

稲枝中学校2年 八木 彩奈

佳作 大会だチームワークを忘れずに

最後の試合力を出すぞ

稲枝中学校2年 門脇 愛琉

佳作 最後まで悔いがないような試合にし

最高の仲間と笑顔で終えよう

稲枝中学校2年 辻野 桜嘉

佳作 遅くまでみんながんばる部活動

負けたら終わり最後の大会

稲枝中学校2年 西村 匠

佳作 夏が来た引退試合辛いけど

最後の試合気合い入れるぞ

稲枝中学校2年 楓 啓太郎

佳作 コンクール練習したから大丈夫

自信を持って舞台へ立った

河瀬中学校1年 山田 萌夏

佳作 花火見る彼によりそうこの時間

大切にしよう二度とないから

中央中学校2年 桑原 琴美

佳作 さあ行くぞ全てを懸けたこの勝負

ベンチの期待を力に変えて

中央中学校2年 西浦 志瞳

佳作 中山道秋は祭りで大にぎわい

みんなで守る宿場の伝統

鳥居本中学校2年 原 有彌

佳作 友達は自分の中の宝物

どんなときでも明るくなれる

南中学校2年 小林 優斗

入選 グラウンドふと見上げると飛んでいる
真青な空に真赤なトンボ

稲枝中学校2年 荒川 蓮旺

入選 秋になり新しい本読んでみて
新しい世界広がっていく

稲枝中学校2年 本持 心愛

入選 七輪でさんまを焼けば煙立つ
その風景が昭和っぽいな

稲枝中学校2年 北阪 聖也

入選 彦根城階段上ると疲れるが
桜を見ると疲れ吹つとぶ

稲枝中学校2年 赤田 遥香

入選 沢山の皿に料理を盛り付けて
見映えが大事と気づかされた

中央中学校2年 竹中 歩夢

入選 合唱コンクラスマンなで声を合わせる
ひびきがあつてうつくしい

中央中学校2年 木村 太一

入選 合唱コン体育館に響かせる
二十九人のきれいな歌声

中央中学校2年 矢岳 凜香

入選 商品を几帳面に並べたら
スッキリしたよ心と体が

中央中学校2年 松尾 夕良

入選 短冊に願いを込めて歌うたう
園児の笑顔がきらきら光る

中央中学校2年 山本 歩思菜

入選 何気ない会話で弾み笑顔咲く
深まる友情時間とともに

中央中学校2年 鈴木 杏奈

入 選 おかえりとはしゃぐ愛犬とんで来て
わたしをいやす魔法の力

中央中学校2年 横山 千尋

入 選 団結だ苦しい日々をのりこえて
勝ちとる勝利みんなとともに

中央中学校2年 山瀬 友貴

入 選 あつい中つくり続けた一時間
ゴキブリ用のホウ酸ダンゴ

彦根中学校2年 藤井 太陽

入 選 中山道ずっと歩いてつかれたが
自然を感じた長距離遠足

彦根中学校3年 北田 麻央

入 選 ありがとう感謝の気持ち忘れずに
笑顔になれる魔法の言葉

南中学校2年 田中 もも



【総評】

今年も皆さんのよい作品をたくさん応募していただき、ありがとうございます。短歌部門には、八四一人から一一七二点の作品の応募がありました。

去年と比べて二五〇人多く、作品数は三五七点も増えて、とてもうれしく拝見させて頂きました。その中から六七点の入賞者を選考させていただきました。

小学生の作品は、去年と比べて少なくなりましたが、良い作品がありましたので、良かったと思います。友だちのことや家族・地域のできごと、希望や夢など、感動を素直に詠よんでいるのはとてもよかったです。

その中で、去年の総評にも書きましたが、今年も「楽しみは」で始まる歌が多いのが目につきました。歌づくりの初めはそれでも良いのですがもう一歩進化して違う歌を作ってくれるのを待っています。

中学生は、今年も挨拶による人と人とのつながり、仲間といっしょの活動、家庭での出来事・感謝の気持ち、世の中に対する思い、体験によって知ったことなど、幅広い方面から色々な作品があつて良かったと思います。

短歌をつくるのに大切なことは、

- ①五・七・五・七・七のリズムに近づくように適切な言葉を考えてほしいと思います。
- ②もう一度見直すのは、よい短歌を作るためにとっても大切なことです。
- ③他人とよく似た短歌よりも、自分だけの発見を短歌にするのはよいことです。

④たくさんさんの短歌を作り、これと思うものを選んで出すようにしてください。

⑤作った短歌を先生や家族などに見てもらうことはとてもよいことです。参考にして頂いて、これからも短歌作りに挑戦してくれるとうれしいです。

(彦根文芸協会 河分 武士)

